

Sermon for Japan 2023

Powerful Faith 力強い信念

Greeting.

Personal intro - MIC, DMI

Opening prayer:

Our Father in Heaven

Hallowed by your name

My kingdom come, my will be done

Out there in the world just as it is in my heart

Give me today my daily desires and wants

Forgive me my sins

And thank you for understanding that there are some people that I just can't forgive

Lead me... into a little temptation because, honestly, I like it.

Yet at the same time, somehow, deliver me from evil.

Amen.

主の祈りをしましょう。

天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

私に御国がきますように。

私のみこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

わたしの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしの負債をもおゆるしくください、でも、わたしに負債のある者を許すことができなくてもわかってください。

わたしは少しの試みなら、実は構いません。なぜなら、誘惑を楽しみたいからです。

でも、とにかく、私を悪しき者からお救いください。

I hope you didn't say 'Amen' to that prayer! (Or if you did, I hope you were just being polite and didn't mean it.)

皆さん、まさか、このような祈りに『アーメン』とは言わないでしょう。あるいは、言ったとしても、私に気を遣ってくれただけで、本心からそう祈っていないことを願います。

I worry that many Christians today pray that prayer instead of the real Lord's prayer. I worry about this because sometimes I pray that prayer instead of the Lord's prayer. I don't actually say those words. But by the inclination of my heart and even the way I live out my life sometimes, I'd rather my will be done over the Lord's will. It's easier to not forgive others and to hold a grudge. I'd rather enjoy a little temptation from time to time than be bored.

今日（こんにち）、多くのクリスチャンが、本当の主の祈りの代わりに、先ほどのような祈りを祈っているのではないかと私は心配しています。そんなことを心配するのは、時々、私自身が、主の祈りの代わりに、このように祈ってしまうことがあるからではないかと思えます。私は、そのような祈りの言葉を実際に口にすることはありません。しかし、自分の心が何に傾いているのかや、生き方によって、時々、主の御心よりも自分の御心がなされることを望んでしまうのです。人を赦さず、恨む方が楽なのです。退屈するくらいなら、ときどきちょっとした誘惑を楽しみたいと思ってしまうませんか。

But obviously this is not right. This is not how we are called to live as people who belong to Christ. This is not how we are to incline our hearts as people who are being transformed into Christ's likeness. We were saved for more than this. We are (as John the Baptist put it) to "produce fruit in keeping with repentance".

しかし、このような考えは明らかに正しいことではありません。このような考えは、私たちキリストを信じる人間が、求められている生き方ではありません。私たちは、キリストに似るように変えられなければならないのに、この間違った祈りのように心を傾けるべきではありません。私たちが救われたのは、主の祈りが叶うためだけではありません。洗礼者ヨハネの言葉を借りるとするなら、私たちは、「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」ために救われたのです。

The apostle Paul writes to Timothy to warn and to encourage him along these very lines. We're going to look at the first 5 verses of 2 Timothy chapter 3 - which bring the warning, and 2 Timothy chapter 4 - which bring the encouragement and the call.

使徒パウロはテモテに次のような警告と励ましを書き送りました。では今から、私たちに警告をもたらしてくれる、テモテへの手紙第二3章の最初の5節と、励ましと呼びかけをもたらしてくれる、テモテへの手紙第二4章を見ていきましょう。

Look at how Paul starts chapter 3: "But mark this". He's saying 'Pay attention now!, 'Listen up!', 'Hey!' Then he warns that there will be terrible times for us to endure in the last days. What follows are 19 character flaws or sins which are so relevant and prevalent today you'd swear they were written just last week:

パウロは3章の冒頭で「しかし、よく承知しておきなさい」と述べています。彼は「注目しなさい!」「よく聞きなさい!」「ほら!聞いて!」と言っているのです。そして、「終わりの日には困難な時代がやって来る」と警告しています。これから読む聖書箇所には、つい最近書かれたばかりではないかと思うほど、人間の一般的な19の性格上の欠点や罪のことが現代風に表現されています。テモテへの手紙第二 3章1-5節をお読みします。

"But mark this: ... People will be lovers of themselves, lovers of money, boastful, proud, abusive, disobedient to their parents, ungrateful, unholy, without love, unforgiving, slanderous, without self-control, brutal, not lovers of the good, treacherous, rash, conceited, lovers of pleasure rather than lovers of God— having a form of godliness but denying its power. Have nothing to do with such people."

1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。

2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神を

けがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、
3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者
になり、4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、
5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を
避けなさい。(テモテへの手紙 第二 3章1-5節)

I encourage you to read and meditate on this this list when you get home and ask the Holy Spirit to show you where you might be lacking so that you can turn from it. This is the gift of God - to lead you to repentance. Today, I'd like to focus on just the last entry in this list because more than all the others it focuses on the whole church.

今日皆さんが家に帰ったら、ここに書かれていることをもう一度読んで黙想し、聖霊に聞いて自分に足りないところを示してもらい、そこから自分を振り返って考えるようにお勧めします。あなた自身を悔い改めへと導くこと、それこそが神からの賜物なのです。今日は、この聖書箇所に掲げられている最後の節だけに焦点を当てたいと思います。なぜなら、この最後の項目が一番、教会全体に焦点を当てているからです。

Paul warns against "Having a form of godliness but denying its power." This scares me a bit. It can cut very close to the bone. We can come to church, sing songs, say prayers, take communion, and listen carefully to a sermon - we can have a form of godliness - but if we don't allow the power of God to change our lives, then it's worse than meaningless and Paul says we should stay away from such people.

パウロは「見えるところは敬虔であっても、その実を否定する、すなわち神の力を否定する」ことを戒め(いましめ)ているのです。この言葉は、自分の身に当てはめてみると、ちょっと骨身に染みるように怖いのではないのでしょうか。なぜなら、私たちは見えるところ、すなわち教会に行ったり、歌を歌ったり、祈りを捧げたり、聖餐式を行ったり、説教に熱心に耳を傾けたりという謙虚な行動を見せることはできても、実は、神の力を否定しているのではないのでしょうか？

The power of the gospel is best seen in changed lives. When the Holy Spirit is allowed to flex and His power is embraced, then sin habits are broken, character is changed, and hope transforms our whole outlook on life. We learn to delight in the fear of the Lord.

神の力とは、私たちの人生が変化したときに最もよく表れるものです。聖霊が力を発揮し、私たちがその力を受け入れることができれば、罪の習慣を断ち切ることができ、私たちの人格は変わり、希望が生まれ、人生観が一変するのです。そして、私たちは主を畏れることを喜びと感じられるようになるのです。

We would do well to check ourselves on this and ask:

If I am embracing the presence of Christ and the power of God in my life then why do I still watch entertainment with blasphemy ("unholy") in it?

If I am embracing the presence of Christ and the power of God in my life then why do I still chase money and spend it as though it's all mine?

Why do I still struggle with self-control?

Why do I still watch pornography?

Why do I still carry grudges?

Why do I still get so easily angered?

Why do I still struggle with anxiety?

Why am I still so often indifferent to God?

ではここで、次のような質問リストを用いて、自分自身が変わり、罪の習慣を断ち切ることができているかどうかを、自問自答してみましょう。

- もし私が、キリストの存在と神の力を受け入れているのなら、なぜいまだに神を冒瀆するようなエンターテイメントを見ているのでしょうか？
- もし私が、キリストの存在と神の力を受け入れているのなら、なぜいまだにお金を追い求め、まるで自分のものであるかのように使っているのでしょうか？
- なぜまだ自分を自制することに難しさを感じているのでしょうか？
- なぜ、いまだにポルノを見てしまうのでしょうか？
- なぜ私は、いまだに恨みを抱いているのでしょうか？
- なぜ私は、まだそんなに簡単に怒ってしまうのでしょうか？
- なぜ私は、まだ不安と闘っているのでしょうか？
- なぜ私は、いまだに神様に無関心なことが多いのでしょうか？

Paul calls us to embrace the power of God in Christ to effect change in our lives for His glory.

パウロは私たちに、キリストにある神の力が、神の栄光のために私たちの人生を変えることを喜んで受け入れなさいと呼びかけてくれているのです。

Let's pause to pray about this now - and this is not a token prayer. This is where we invite God to really work in our hearts:

今ここで、神が私たちの人生を変えてくださることについて、一旦立ち止まって祈りましょう。形だけの祈りではなく、神が私たちの心の中に本当に働いてくださるようにとお願いしましょう。お祈りします。

“Father, we don't want a limp, powerless form of godliness. We ask you to come and fill us afresh with the presence and power of your Holy Spirit to break sin habits, to bring newness of life, to bring boldness to live out our faith, to bring a fresh sense of purpose and design in the way we live, to fall in love with you once again, to delight in the fear of you, to become like you, to enjoy you and to bring pleasure to you. Amen.”

「神様、私たちは神様の力を否定するような、いい加減な敬虔（けいけん）さは持ちたくありません。あなたに、私たちの罪の習慣を断ち切ってもらい、人生に新しいものをもたらしてもらい、信仰を貫く大胆さをもらい、生きるために新しい目的と計画を感じさせてもらいたいのです。あなたともう一度恋に落ち、あなたを恐れ喜び、あなたのようにになり、あなたと共にいることを楽しみ、あなたに喜んでもらいたいのです。あなたの聖霊の臨濟と力で、私たちが新たに満たしてくださいますようお祈りします。アーメン。」

So there's a warning for us to avoid ungodly living and powerless religion. Paul now moves to encourage Timothy in the next chapter. Again, look at how Paul begins his encouragement:

これまでお話してきたように、テモテへの手紙第二3章には、私たちが不道德な生活や力のない宗教を避けるようにという警告が書かれていました。そして、次の4章では、パウロがテモテを励まそうとします。では次に、パウロがどのようにテモテを励ましているのかを見てみましょう。テモテへの手紙第二 4章1節には次のように書かれています。

2 Timothy 4:1–

“In the presence of God and of Christ Jesus, who will judge the living and the dead, and in view of his appearing and his kingdom, I give you this charge:”

テモテへの手紙 第二 4章1節–

1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

Paul is not about to make a flippant comment, or a casual suggestion. He is about to bring a serious, life-shaping word. He’s using legal terminology to say, ‘Pay attention now!, ‘Listen up!’, ‘Hey!’ ‘This is really important!’ Then he brings it:

ここでは、パウロは、気軽に話したり、提案をしているわけではありません。人生を左右するような重大な言葉をテモテに伝えようとしているのです。パウロは律法用語を使って、「今すぐ注意なさい!」「よく聞きなさい!」「ほら、聞いて!」「これは本当に重要な事ですよ!」と言っているのです。そしてさらに、2–5節で、パウロは次のようにテモテと私たちに警告を続けています。

“Preach the word; be prepared in season and out of season; correct, rebuke and encourage—with great patience and careful instruction. [For the time will come when people will not put up with sound doctrine. Instead, to suit their own desires, they will gather around them a great number of teachers to say what their itching ears want to hear. They will turn their ears away from the truth and turn aside to myths.] But you, keep your head in all situations, endure hardship, do the work of an evangelist, discharge all the duties of your ministry.”

2–5節を、お読みします。

2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしつかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

5 しかし、あなたは、どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

Some of the instructions Paul is giving here are specific to Timothy’s gifting and ministry. But we can still easily make parallel or direct applications to Paul’s words here in our own lives. For time’s sake, I’m just going to focus on the last verse in the passage, starting with the fatherly words, “keep your head in all situations”.

パウロがここでテモテに与えている指示のいくつかは、テモテの才能と働きに特化したものだということがわかります。しかし私たちも、このパウロの言葉を自分の人生に直接当てはめてみるすることができます。今日はあまり時間がないので、この聖書箇所最後の節、5節に焦点を当て、「どのような場合にも慎みなさい」という父親のようなパウロの言葉を、皆さんと考えてみたいと思います。

I relate to this very much in my work with DMI. Just in one week - the week I wrote this sermon - the following requests/emergencies arose in the ministry for me to deal with:

ここで、私のことを少しお話しさせてください。

私は、デフミニストリーインターナショナル・国際ろう者支援団体で仕事をしています。国際ろう者支援団体を以後、省略してDMIと呼びますが、私のDMIでの仕事を通して、「どのような場合にも慎みなさい」と言う言葉に非常に共感することができます。実は、今日のこの説教を書いている一週間の間に、DMIの現地の人々から次のような要望や緊急事態が発生し、対処に追われていました。その緊急事態や要望の内容とは、次のようなものでした。

- \$300 to support an evangelist for his wedding
 - \$280 for a flight to an important Christian conference,
 - \$1000 for surgery to avoid amputation,
 - \$180 to treat poisoning
 - \$1600 to replace a joinery that burnt down
 - \$300 for government required school books
 - \$4500 for a car repair
 - An additional \$50 a week for rent support or one of our evangelists
-
- 伝道者が結婚式を挙げるので、支援のために300ドル欲しい
 - 重要なキリスト教の会議に参加するための飛行機代として280ドル 欲しい
 - 足の切断を避けるための手術に1000ドル 欲しい
 - 毒をもらわれ病気になった治療に180ドル欲しい
 - 全焼した家の建具（たてぐ）の交換に1600ドル欲しい
 - 政府が指定する学校の教科書を購入するために300ドル欲しい
 - 車の修理代に4500ドル欲しい
 - 週50ドルの家賃補助、または伝道者の一人分の伝道費用の補助が欲しい

These are on top of the long-standing requests to build more churches, more classrooms, provide more training, pay our teachers more because they keep leaving for more highly paid work, and build more seminaries for the Deaf. We don't have the funding to meet all these extra needs. It can be overwhelming. I'm very tempted to lose my head!! So the calm voice of authority saying "Keep your head in all situations" is meaningful. I expect it would be for many of you, too.

DMIが運営している教会や教室の増設のためや研修の充実のため、または、教師の給料を上げたり、ろう者のための神学校を作ることというような長年の要望に加え、個別の新しい要望も出てきます。

しかし、このような要望をすべて満たす資金がDMIにはありません。そう考えると、私は、『どうしよう、、』と圧倒されて頭が真っ白になります。

だから、「どのような場合にも慎みなさい」という冷静な神の声は、私にとって大いに意味を成してくれるのです。

そして皆さんも、私と同じように感じるのではないのでしょうか？

For time's sake, I'd just like to focus on the very last entry in the last verse in this list of encouragements, and it's this: "discharge all the duties of your ministry". This might sound a bit dry and crusty. Most of us would rather hear a word of encouragement that says "You don't have to do anything! Just enjoy your salvation!" We'd rather hear about being filled with love, joy and peace and being recipients of grace and mercy etc. Perhaps we feel we could do with such encouragements more at this time.

では次に、このテモテに対する励ましの最後の節にあたる、5節の一番最後の「自分の務めを十分に果たしなさい」という言葉に注目したいと思います。この言葉は、少し味気なくて、堅苦しく聞こえるかもしれません。私たちの多くは、「私たちは何もしなくていいのです。ただ救われたことを喜ばばいいのです！」というような励ましの言葉を聞きたいと思っているのではないのでしょうか。「自分の務めを十分に果たしなさい」という堅苦しい言葉よりも、むしろ、私たちは愛と喜びと平安に満たされており、恵みと憐れみを受けていることなどについて聞きたいと思っています。特に今のような時代には、そのような励ましをもっと受けたいと皆さんは感じていると思います。

But however simply or profoundly, we're all called to minister in one way or another. We're all called to serve. And this is where we find a deep fulfilment. Just as there is something dissatisfying with leaving ministry work unfinished, or leaving a service undone, there is also something deeply satisfying, richly rewarding, in faithfully and fruitfully completing an area of ministry or service. There's a thrill in anticipating the words, "Well done good and faithful servant". Discharging the duties of our ministry is a blessing.

しかし、どんなに簡単なことでも、どんなに深い意味のあることでも、私たちは皆、何らかの形で奉仕するよう神に召されているのです。私たちは皆、奉仕するために召されているのです。そして、そこに深い充足感を見出すことができるのです。私たちは、奉仕の仕事をやり返してしまうと物たらない気持ちになりますが、宣教や奉仕の仕事を誠実に、そして実り豊かにやり遂げると、深い満足感に満たされ、豊かなやりがいが生まれてきます。私たちは、「よくやった。善良で忠実な僕よ。」と言われることによって、他では感じることでできない幸せを感じます。私たちが奉仕活動の義務を果たすことは、祝福なのです。

Let's pause now again to pray for this. "Heavenly Father, thank you for calling each of us into service. Thank you that you delight in working with and through us. Strengthen our faith by your Spirit to do this work. Encourage us by your Word to persevere in good works. Fill us with joy as we discharge all the duties of our ministries and service. To this end, we trust in your unfailing love and rejoice in your salvation. Amen."

今度は、私たちは、もう一度立ち止まって奉仕のために祈りたいと思います。お祈りをしましょう。

「天の父よ、私たち一人一人を奉仕のために召してくださることを感謝します。あなたが私たちと共に、また、私たちを通して働き、喜んでくださることを感謝します。奉仕をするために、あなたの御霊によって私たちの信仰を強めてください。私たちが良い行いに励むことができるように、みことばによって励ましてください。私たちが奉仕の務めを果たすとき、喜びで満たしてください。そのために、私たちはあなたの揺るぎない愛に信頼し、あなたの救いを喜びます。アーメン」

Discharging the duties of ministry is a wonderful thing and I'd like to demonstrate this by sharing with you/updating you some of the extraordinary work that [Deaf Ministries International](#) has done by discharging the duties of its ministry.

奉仕の職務を遂行することは素晴らしいことなのです。では今から、デフ・ミニストリーズ・インターナショナル/DMIがおこなった様々な奉仕活動や、成し遂げた素晴らしい宣教活動のいくつかを紹介し、「奉仕の努めを遂行する素晴らしさ」を皆さんに知っていただきたいと思います。

For those who are unfamiliar with DMI, we are an International Christian ministry network taking the gospel, education and employment to the Deaf all around the world. That's what we do and that's what we have been doing for over 40 years.

さてここで、前後しましたが、デフ・ミニストリーズ・インターナショナル/DMIをご存じない方のために説明させていただきます。私たちDMIは国際的に活動し、ろう者を支援する非利益団体です。世界中のろう者に福音を伝え、教育や雇用を提供する国際的なクリスチャンの団体という、クリスチャン・ミニストリーネットワークであり、私たちDMIは現在まで40年以上にわたって、奉仕活動を続けています。

[Some background here. I was first introduced to DMI about 30 years ago when I met the founder, an Australian man names Neville. I began to support DMI because I loved the work they were doing and I loved Neville. He was the real deal: faithful, gifted, humble, delightfully self-deprecating and lived a virtuous Christian life. I began to sponsor a child with DMI, then each of my children began to sponsor children, my church began to support DMI and then I was asked to serve on the Japan board of DMI which I did for about 6 years before I was asked to come on staff with them back in 2019. So my relationships with DMI is a long and happy one.]

今から、私がDMIで働くことになった背景を少しお話します。私がDMIを知ったのは、約30年前、創設者であるオーストラリア人のネヴィルという人物に出会ったことが発端となります。私はDMIの活動に大いに賛同し、ネヴィルさんの人柄も大好きだったので、DMIへの支援を個人的に始めました。ネヴィルさんは、誠実で、才能があり、謙虚で、楽しく、少々、自虐的なユーモアを持つ、高潔なクリスチャン・ライフを送る、地に足のついたという表現が似合う人物でした。その後、私はDMIの子供たちを支援するスポンサーになり、私の家族もそれぞれスポンサーとなり、私の教会だった箕面国際教会もDMIを支援してくれるようになりました。そして後に、私はDMIの日本理事会に依頼され、約6年間、DMI日本支部の理事を務めた後、2019年に再びDMIのスタッフとして共に働くようにと依頼されたのです。このように、私とDMIの関係は長く、現在でも、とても良好な関係を保っています。

To introduce DMI to you, let's have a quick look at the numbers:

皆さんにDMIを紹介するにあたって、次のような数字を見てもらいたいと思います。

- * We are active in 21 countries.
- * We have built or heavily invested in 10 schools for the Deaf serving a total of 700 students
- * We have developed over 70 employment projects
- * We employ around 100 staff and evangelists in the field
- * We have founded 180 churches for the Deaf and they serve 5000 Deaf people every week.

- * DMIは、世界21カ国で活動しています。
- * DMIは、合計700人の生徒が通う10校のろう学校を建設、設立、または多額の投資を行っています。
- * DMIは、70以上の雇用プロジェクトを実施しています。
- * DMIは、現地で約100名のスタッフ・伝道者を雇用しています。
- * DMIは、世界中でろう者のための教会を180ヶ所設立し、毎週5000人のろう者に宣教しています。

Just in the last 12 months we have, amongst other developments

- Built a secondary school and office in DR Congo
- Provided disaster relief and rebuilt our training centre and dormitory in Malawi
- Developed a community employment project in Tanzania
- Bought land to build a seminary for the Deaf in Africa
- Built a new church building in the Philippines
- Built a temporary church building in East Uganda
- Built new classrooms in Lira, northern Uganda
- Supported a large program for tradie internships in Uganda
- Supported a new cafe business in China
- Built a new junior high school in Kenya

これらの数字を知ってもらった上で、次に、この1年間で、DMIが実際に行ったさまざまな活動をお伝えします。

- コンゴ民主共和国に中学校と事務所を建設しました。
- マラウイで災害支援を行い、トレーニングセンターと寮を再建しました。
- タンザニアで地域社会の雇用プロジェクトを展開しました。
- アフリカにろう者のための神学校を建設するための土地を購入しました。
- フィリピンに新しい教会堂を建設しました。
- 東ウガンダに仮設教会堂を建設しました。
- ウガンダ北部のリラ地域で新しい教室を建設しました。
- ウガンダで貿易商のインターンシップのための大規模なプログラムを支援しました。
- 中国でカフェの新規開業を支援しました。
- ケニアに中学校を建設しました。

This is just infrastructure. Most of our work and funding has gone into ministry programs taking the gospel to the Deaf, baptising new believers, holding discipleship and training programs and planting new churches for the Deaf.

これらの活動は単に経済的な基盤作りに見えるかもしれませんが、私たちDMIの活動や資金のほとんどは、ろう者に福音を伝え、新しく信者になった者に洗礼を授け、弟子訓練プログラムを実施し、新しいろう者の教会を建てるための宣教プログラムに、費やされてきました。

Why is all this needed? Because the Deaf in developing countries are amongst the most neglected people in the world, especially when it comes to hearing the gospel. Local governments don't have the funding to properly support or educate even the hearing populace, so the Deaf are left uneducated, unemployed and without any community. Even in loving families, many live silent, lonely, frustrated lives without much opportunity or hope. Many others, however, are abandoned at birth and grow up with the stigma of being cursed, and end up begging or in prostitution. Many don't even know their own names.

ではなぜ、私たちDMIはこのような活動をする必要があるのでしょうか？それは、なぜなら、発展途上国のろう者たちは、福音を聞くことに関しては特に、世界で最も取り残されている人々だからなのです。地方政府には、健聴者を支援し教育するための資金さえないため、ろう者は、尚のこと、教育も受けられず、仕事にもつげず、コミュニティにも属することができません。また、あるろう者たちは、愛情に満ちた家庭で育っても、多くのろ

う者が社会参加の機会も希望もなく、黙々と、孤独に、もどかしい生活を送っているのです。あるろう者たちは、生まれながらにして家族に捨てられ、呪いの汚名を着せられたまま成長し、物乞いや売春に手を染める者も少なくありません。多くのろう者は自分の名前さえ知らないのです。

By “discharging the duties of our ministry” (as Paul writes to Timothy), DMI is changing all that. The Deaf are educated. They are given meaningful employment. They are starting to live self-sustainable lives. They enjoy new-found community. And many are finding faith in Jesus. The result of DMI’s work is radically transformed lives on a massive scale. The discharging of the duties of our ministry is producing wonderful fruit.

パウロがテモテに書いたように、「務めを果たす」ことによって、DMIはそのすべてを変えようとしているのです。今では、ろう者は教育を受けています。彼らには有意義な仕事が与えられています。彼らは自立した生活を始めています。ろう者たちは新しいコミュニティに参加する事を楽しんでいます。そして何より、多くのろう者たちがイエスへの信仰を見出しているのです。DMIの活動の結果、ろう者たちの生活が大きく根本的に変えられたのです。今では、私たちDMIの働きが、素晴らしい実を結んでいるのです。

I’ve taken you through some of the basic numbers. But let me tell you about the people. I have been so overwhelmed by the change in people’s lives through DMI’s work, that I began to interview many of the recipients of our ministry. Over the last three years I have interviewed and written in a blog the stories of almost 50 Deaf people. Their stories are extraordinary, yet in our work, they are also common.

さて、DMIの基本的な活動や数字については、今までご紹介してきましたが、これからは「人」についてお話しします。私は、DMIの活動を通して人々の人生が変わっていくことを目の当たりに見て、圧倒され、私たちDMIの奉仕活動を受けた多くの人々に興味を持ち、インタビューをするようになりました。この過去3年間で、私は50人近いろう者の人たちにインタビューをし、そのお話しをブログに書いてきました。皆さんには、彼らのお話し/ストーリーは並外れたもののように聞こえるでしょうが、私たちの活動においては、よく聞く話でもあるのです。

Today, I’d like to share with you about Sylvia. (And I’ll finish on this testimony.)

それでは今からシルヴィアについてお話しします。そして、シルヴィアの証言をもって、私の今日の話締めらせていただきたいと思います。

Testimony

Sylvia was born deaf. Her mother died when Sylvia was a baby and her father died when she was 5. So Sylvia was orphaned from a very early age. She was taken in by her grandmother who was an alcoholic and abused and beat her on a daily basis. Sylvia used to hide out on the streets until her grandmother was asleep but often she would awake and continue abusing Sylvia.

シルヴィアは生まれつき耳が不自由でした。母親はシルヴィアが赤ん坊のときに亡くなり、父親はシルヴィアが5歳の時に亡くなったため、シルヴィアは幼い頃から孤児として育ちました。彼女を引き取った祖母は、アルコール依存症で、毎日のように彼女を虐待

し、殴っていました。シルヴィアは毎日、祖母が眠りにつくまで路上に隠れていましたが、祖母が目覚めるとシルヴィアを虐待し続けることがよくありました。

I remember Sylvia telling me all this and her groans and cries were so loud that I had trouble hearing the interpreter. Other things happened to Sylvia that I wasn't able to hear and to be honest, I'm glad I couldn't hear them.

インタビュー当時、シルヴィアが私にこのような話しをしてくれたのですが、興奮して話す彼女のうめき声や叫び声が大きすぎて、通訳の声が聞き取りにくかったのを覚えています。その他にも、シルヴィアの身に起こったことで、私がよく聞き取れなかったことがありましたが、正直、むしろ全て聞けなくてよかったのではないかなと思うぐらい、聞くに耐えないひどい話でした。

She discovered she had some relatives in Kampala, so she ran away from her grandmother and travelled 270 kms to join them. They took her in and gave her a bed and some food but nothing more. They just gave her some food and then told her she had to pay for it. But she was just a child, and a Deaf one at that! How was she supposed to pay? She said, "I had no-one in the world who cared for me, no-one who loved me. I felt so completely isolated."

ある日、カンパラ地域に親戚がいることを知ったシルヴィアは、祖母のもとを逃げ出し、270キロの距離を移動して親戚のもとへ行きました。親戚は彼女を受け入れてくれて、ベッドと食べ物を提供してくれましたが、それ以上は何も与えてくれませんでした。しかも、その与えた食べ物の代金をシルヴィアに払えというのです。しかし、彼女はまだ子供で、しかも耳が聞こえません。シルヴィアは次のように言いました。「どうやってお金を払えばいいのでしょうか？私のことを心配してくれる人も、愛してくれる人も、この世には誰もいないと思いました。私は完全に孤立していました。」

One day when she was 9, she met another Deaf girl who asked her if she'd ever been to school. She hadn't, of course, and the thought of ever attending school was a cruel tease. But the girl told her about DMI and how DMI might help her go to a school for the Deaf.

シルヴィアが9歳になったある日、彼女は他のろうあ者の少女に会いました。その少女はシルヴィアに『学校に行ったことがあるか』と聞きました。もちろん、シルヴィアは学校に行ったことなどなかったし、学校に行くということは、ろう者の彼女にとって残酷なほどからかわれることを意味していました。しかし、その少女がシルヴィアにDMIのことを話し、DMIがシルヴィアをろう学校へ通わせる手助けをするかもしれないことを教えたのでした。

Sure enough, DMI sponsored her to go to school and from that day, Sylvia's life began to change. She said, "I was so happy. For the first time in my life, I felt accepted, excited. I felt loved!" Sylvia also began to attend the DMI's church for the Deaf and at the age of 13, she gave her life to Christ and was baptised.

そしてDMIのことを知ったその日から、シルヴィアの人生は変わり始めました。シルヴィアはまた次のように話しました。「私はとても幸せになりました。生まれて初めて受け入れられていると感じ、興奮しました。愛されていると感じたのです！」

シルヴィアは、DMIのろう者のための教会にも通うようになり、13歳のときにキリストに人生を捧げ、洗礼を受けたのでした。

Sylvia finished her schooling and, fast forward a bit, recently completed an internship organised by DMI at a signing cafe. **She did so well at that that when I visited her last November, she is now the manager of the cafe.**

現在、シルヴィアは学校を卒業し、DMIが企画した手話カフェでのインターンシップを終えたばかりです。昨年11月に彼女を訪ねた時は、そのカフェの店長になるほどに成長していました。

More than this, Sylvia is now also the worship leader in the church in Kampala. I've some some gifted people lead worship before, but I've never seen anyone lead worship like Sylvia does. I've never seen such joy and humble exuberance in worship leading. Look at this video. Look how Sylvia encourages others on the worship team to worship before turning to the congregation to encourage them.

さらに、シルヴィアは現在、カンパラの教会で賛美のリーダーを務めています。今まで何人かの才能ある人たちが賛美をリードしてきましたが、シルヴィアのように喜びと謙虚な高揚感をもって賛美をリードしている人を見たことがありません。今からシルヴィアの賛美のビデオをお見せします。シルヴィアがまず、賛美チームの他のメンバーを励まし、その後、会衆の方を向いて励ましている様子を見てください。

[Video]

I look back at how Sylvia was - a little girl whose life had been characterised by frustration, loneliness, abuse and fear, and now I see a grown woman whose life is characterised by purpose, friendship, peace and joy. Her dream is to be an apostle to the Deaf. The only thing left for her to find now, she tells me, is a husband!

挫折、孤独、虐待、恐怖に満ちた少女だったシルヴィアが、今では目的、友情、平和、喜びに満ちた大人の女性になっているのです。彼女の夢は、ろう者の使徒として働くことだそうです。シルヴィアは、『現在は全てが満ち足りています。私が唯一、探さなくてはならないのは、夫です。』とっていました。

In Sylvia's story we see a form of godliness that embraces the power of God for change. DMI has been faithfully - and very joyfully - keeping our heads in all situations, not despairing when looking into the darkness, enduring hardship (and there's plenty of that!), and discharging all the duties of our ministry. And the results are plain to see. Wonderful!

シルヴィアの物語には、テモテのように、変化をもたらす神の力を受け入れると言う、敬虔さが見て取れます。DMIは、どんな状況でも忠実に、そして大いなる喜びを持って、頭を下げ、暗闇を見ても絶望せず、苦難に耐え、奉仕のすべての務を果たしてきました。そして、その結果は一目瞭然です。素晴らしい結果です。

I'd like to give you an invitation. If you're not already supporting DMI, please do. We need support in prayer, finance and service.

If you'd like to be a prayer partner, there is a sign up sheet at the back and we will send you weekly prayer points. Prayer is the backbone of our ministry and the more prayer partners we have, the better.

If you'd like to support us financially, you can do this through child sponsorship, or through gifts to projects, pastors or our general fund. The cards of children available for sponsorship are on the table at the back.

If you'd like to support us in service, there are roles that we would love to see filled for assistant volunteers, regional ambassadors and at national board level. Please talk with me afterwards about how you can be involved in our ministry to the Deaf.

今朝は皆さんに、招待状を差し上げたいと思います。もしあなたがまだDMIを支援しておられないなら、ぜひ支援活動に参加してください。私たちDMIは、祈り、財政、奉仕の面で、皆さんの支援を必要としています。

もし、祈りのパートナーになりたい方は、後ろにサインアップの用紙がありますので記入していただければ、毎週祈りの課題を送らせていただきます。祈りは、私たちのミニストリーの重要項目であり、より多くの祈りのパートナーがいればいるほど、ありがたく思います。

もし、私たちを経済的に支援してくださる場合は、チャイルド・スポンサーシップ、またはプロジェクト基金、牧師への寄付金、通常の資金のための寄付金の支援をしていただくことができます。スポンサーシップが可能な子どもたちの登録カードは、後ろのテーブルの上にあります。

また、奉仕活動のよって私たちを支援してくださる方は、ボランティアのお手伝い、地域担当代表者、また全国にあるDMI理事会の事務などの役割を担ってくださる方を募集しております。ろう者への奉仕にどのように関わることができるか、今日のお話の後、私に直接相談しにきてください。

I'd like to finish by encouraging you to take your faith to the next level - to strengthen your faith in these "terrible times in the last days" (as Paul says); to leave behind the character flaws and sins that Paul describes in his letter to Timothy, and to embrace the power of God that makes us wise for salvation and mature in faith. Be prepared in season and out of season so you can keep your head in all situations, endure hardships and discharge the duties of your ministry.

パウロの言葉にある、この「終わりの日」において信仰を強め、パウロがテモテへの手紙で述べているような性格の欠点や罪を捨て、救いのために賢くあり、信仰において成熟させる神の力を受け入れるよう、皆さんにお勧めすることで今日の話を終りたいと思います。どんな状況でも慎んで冷静さを保ち、苦難に耐え、務めを果たすことができるように、どんな時でも状況でも備えていてください。

The Lord be with your spirit.

主イエス・キリストがあなたがたと共におられますように。

Closing prayer:

Our Father in heaven
Hallowed by your name
Your kingdom come, your will be done
On earth as it is in heaven
Give us today our daily bread
Forgive us our sins as we forgive those who sin against us
And lead us not into temptation,
But deliver us from evil.
For the Kingdom, the power and glory are yours,

For ever and ever
Amen.

最後に『主の祈り』で、終わりたいと思います。

天にまします我らの父よ、
願わくは、み名をあげさせたまえ。
み国を来たらせたまえ。
みこころの天に成るごとく
地にも成させたまえ。
我らの日用の糧を、きょうも与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みに遭わせず、
悪より救いだしたまえ。
国と力と栄えとは、
限りなく汝のものなればなり。

アーメン